

氏 名	中尾 竜二
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	保健福祉学
学位授与番号	博甲第119号
学位授与の日付	平成30年3月23日
学位論文の題目	民生委員を対象とした地域包括支援センターへの援助要請意向の特性に関する研究
学位審査委員会	主査 竹本 与志人 副査 近藤 理恵 副査 村社 卓 副査 川上 貴代 副査 實金 栄

学位論文内容の要旨

本学位論文は、認知症が疑われる高齢者の早期受診を可能とする連携システムの構築をねらいに、民生委員に焦点を当て、彼らの認知症が疑われる高齢者を発見した際の地域包括支援センター（以下、包括）への援助要請意向の特性を明らかにした研究である。

本学位論文の構成は、4章構成となっており、第1章では、わが国の認知症対策の歴史の変遷をふまえ、早期受診が重要視されるようになった背景と早期受診に関する先行研究の動向を整理した。わが国において、認知症が疑われる高齢者の早期発見・早期受診への対策が急務とされるなか、家族にその役割を期待する認知症施策や先行研究が大半を占めていたが、家族のみでの受診が困難な現状から、地域住民が早期に認知症の発症に「気づき」、専門機関へ「つなげる」という受診援助についての研究の進展が望まれることを提示した。なかでも民生委員には認知症が疑われる高齢者の見守りとともに、彼らの適切な対応あるいは包括への相談ならびに協働による早期受診の実現の一助が期待されているものの、現状では民生委員に対する期待と実態との間には乖離と課題があることを指摘した。

第2章では、民生委員と包括の連携関係に着目し、その両者の連携関係について双方のデータを用いて探索的検証を行った。まず、包括専門職を対象にアンケート調査を実施し、クラスター分析（Ward法）を用いて類型化し、コンボイモデルを参考に模式化することで包括が受診援助を行っているケースの援助依頼者の連携関係を確認した。結果、最も包括との関係性が密であると考えられる内層には、「民生委員」「高齢者の同居家族」「高齢者の別居家族」が位置していた。また、民生委員を対象にアンケート調査を実施し、認知症が疑われる高齢者を発見した際の相談先の選択の意向について、クラスター分析（Ward法）を用いて類型化し、類型化された各グループ間における属性等の違いを確認した結果、4つのグループに類型化され、26の機関および人すべてにおいて有意差が確認された（ $p < 0.05$ ）。また、すべてのグループで「包括」

を相談先として選択する意向が高いことが示された。これらの結果より「包括」と「民生委員」の連携関係は強固であることが確認された。

第3章では、第2章で明らかとなった結果をふまえ、民生委員を対象に担当地域内で認知症の初期症状を呈する認知症が疑われる高齢者を発見した際の包括への援助要請意向に焦点を当て、認知症進行遅延薬に関する知識、認知症の人に対する肯定的態度との関連について検証した。まず、包括への援助要請意向について潜在クラス分析を用いて類型化を行い、次いで潜在クラス分析より推定された各クラスを従属変数とし、認知症進行遅延薬に関する知識、認知症の人に対する肯定的態度等を独立変数に両者間の関連性について潜在クラスを同時推定した多項ロジットモデルにより検討した。結果、民生委員の援助要請意向は、4クラスモデル時において Sample-size Adjusted Bayesian Information Criterion は最小であり、かつ Entropy が 0.80 であったことから、4つのクラスに類型化されたと判断された。積極的に援助要請を行っているとは推測された援助要請実践型の構成割合は約4割を占めており、そのクラスを基準に検討した結果、「性別」（中程度認知機能障害援助要請型；Odds Ratio（以下：OR）：0.564, 95%Confidence Interval（以下：95%CI）：0.353-0.900, $p<0.05$ ）（援助要請消極型；OR：1.504, 95%CI：1.064-2.128, $p<0.05$ ）（軽度認知機能障害援助要請型；OR：2.025, 95%CI：1.344-3.050, $p<0.01$ ）、「年齢」（中程度認知機能障害援助要請型；OR：0.921, 95%CI：0.889-0.955, $p<0.001$ ）（援助要請消極型；OR：0.937, 95%CI：0.909-0.966, $p<0.001$ ）、「認知症の人に対する肯定的態度」（中程度認知機能障害援助要請型；OR：0.888, 95%CI：0.826-0.954, $p<0.01$ ）（援助要請消極型；OR：0.844, 95%CI：0.797-0.894, $p<0.001$ ）（軽度認知機能障害援助要請型；OR：0.926, 95%CI：0.866-0.990, $p<0.05$ ）で有意な関連を示していたことが明らかとなった。

第4章では、以上の結果を踏まえて総合考察を述べた。認知症が疑われる高齢者の早期受診の推進には、民生委員の包括への援助要請意向の特性を評価することが重要であり、援助要請意向を高めるためには「認知症の人に対する肯定的態度」を高めることが有用である可能性を示すことができた。以上の研究成果をふまえ、認知症の人に対する肯定的態度の醸成に寄与する具体的な研修企画の内容として、認知症の人の関わりの機会の提供や認知症の治療に関する知識の付与に重点を置いた啓発活動の企画・実施の必要性を提示した。

主業績

No.1	
論文題目	民生委員を対象とした認知症が疑われる高齢者を発見した場合の地域包括支援センターへの援助要請意向とその関連要因の検討－認知症進行遅延薬に関する知識と認知症の人に対する肯定的態度に着目して－
著者名	中尾竜二，杉山京，竹本与志人
発表誌名	社会福祉学，58（1），99-111（2017）

副業績

No.1	
論文題目	民生委員を対象とした認知症が疑われる高齢者を発見した際の相談先の選択の意向
著者名	中尾竜二，三上舞，杉山京，竹本与志人
発表誌名	社会医学研究，33（1），91-98（2016）
No.2	
論文題目	地域包括支援センターが受診援助を行っている認知症の疑いのある高齢者の援助依頼者とその遠近構造
著者名	中尾竜二，杉山京，三上舞，佐藤ゆかり，桐野匡史，神部智司，竹本与志人
発表誌名	厚生指標，63（11），39-45，（2016）

関連業績

No.1	
論文題目	民生委員ならびに福祉委員を対象とした認知症初期症状に対する受診促進意向と認知症に対する受容態度との関連
著者名	中尾竜二，杉山京，澤田陽一，桐野匡史，竹本与志人
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要，21，113-122，（2014）
No.2	
論文題目	民生委員における認知症の知識量と認知症に対する態度の関連
著者名	杉山京，中尾竜二，澤田陽一，桐野匡史，竹本与志人
発表誌名	岡山県立大学保健福祉学部紀要，21，95-103（2014）

No.3	
論文題目	民生委員と福祉委員における認知症の疑いのある高齢者を発見した場合の相談先の選択の意向
著者名	中尾竜二，杉山京，澤田陽一，桐野匡史，竹本与志人
発表誌名	日本認知症ケア学会誌，12（3），583-592（2013）

論文審査結果の要旨

本論文は、認知症が疑われる高齢者の早期受診を可能とする連携システムの構築をねらいに、民生委員に焦点を当て、彼らの認知症が疑われる高齢者を発見した際の地域包括支援センター（以下、包括）への援助要請意向の特性を研究した結果についてまとめたものであり、得られた成果は次のとおりである。

第1章では、わが国の認知症対策の歴史の変遷をふまえ、早期受診が重要視されるようになった背景と早期受診に関する先行研究の動向を整理している。

第2章では、民生委員と包括の連携関係に着目し、双方に対して量的調査を実施し、両者の連携関係が強固であったことを明らかにしている。

第3章では、担当地域内で認知症の初期症状を呈する認知症が疑われる高齢者を発見した際の包括への援助要請意向に焦点を当て、潜在クラス分析ならびに多項ロジットモデルにより検討している。その結果、民生委員は4つのクラスに類型化され、積極的に援助要請を行っていると推測された援助要請実践型の構成割合は約4割であり、他のクラスに比して認知症の人に対する肯定的態度が高かったこと等を明らかにしている。

第4章では、認知症の人に対する肯定的態度の醸成に寄与する具体的な研修企画の内容として、認知症の人の関わりの機会の提供や認知症の治療に関する知識の付与に重点を置いた啓発活動の企画・実施の必要性等を提示している。

本研究成果は、先行研究においてほとんど解明されてこなかった民生委員の認知症が疑われる高齢者を発見した際の包括への援助要請意向に焦点を当て、その特性と援助要請意向を高めるための方策を提示した点にある。認知症が疑われる高齢者の早期受診の促進に関する新しい知見を提供するものであり、保健福祉学領域の研究と臨床実践に有意義なものであると判断された。また、公聴会において適切なプレゼンテーションと質疑応答が行われていた。

以上の結果より、学術上、實際上寄与するところが少なくない。よって、本論文は博士（保健福祉学）の学位論文として価値あるものと認める。